

実施要領 様式11(第13条関係)
 【認知症対応型共同生活介護用】

評価結果公表票

作成日 平成22年 6月 4日

【評価実施概要】

事業所番号	0272501289
法人名	社会福祉法人メープル
事業所名	グループホームメープル
所在地	青森県上北郡六戸町大字上吉田字長谷85番地26 (電話)0176-70-1117
評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会
所在地	青森市中央三丁目20-30 県民福祉プラザ2階
訪問調査日	平成22年2月18日

【情報提供票より】(平成22年1月22日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成16年4月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	14 人	常勤 10人, 非常勤 4人, 常勤換算	12人

(2)建物概要

建物構造	木造	造り
	階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	27,360 円	その他の経費(月額)	光熱水費 6,000 円ほか
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり		1,000 円

(4)利用者の概要(1月22日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	0 名	要介護2	1 名		
要介護3	6 名	要介護4	7 名		
要介護5	3 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 81.05 歳	最低	74 歳	最高	88 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	六戸町国民健康保険病院 浅原歯科医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

郊外にあるメープルは法人の福祉施設に併設し、広い敷地内の庭も整備されている。
 天然温泉の足湯は地域にも開放しており、地域住民が気軽に立ち寄り、交流の場となっている。
 法人内に7つの委員会があり、ホーム職員も参加し、一緒に活動している。運営者は、職員のストレスが虐待に影響するものと考え、夏休み・冬休みを取れる体制を作り職員は慰安旅行等を企画している。
 利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支援し、協力医療機関を確保し、利用者の健康状態に変化がある時はいつでも受診できる体制ができています。
 重度化や終末期への対応を明確にしており、重要事項説明書等を用いて家族等に説明している。また、利用者や家族等の希望に応じて、かかりつけ医・訪問看護・職員が連携を図り、支援している。

【特に改善が求められる点】

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>外部評価の結果を基に話し合い、改善に向けて積極的に取り組んでいる。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者は、評価の狙いや活用方法について会議等で全職員に周知している。自己評価は、各ユニットで全職員が参加して行い、管理者がまとめている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、自己評価や外部評価の結果の報告のほか、ホームの行事計画や事故報告等を行い、意見交換をしている。また、全家族に会議参加を促し、多くの参加を得ている。</p>
	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部10, 11)</p> <p>毎月、利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理の状況を送付し、報告している。法人広報誌を2ヶ月毎に発行し、グループホームコーナーで日々の暮らしぶりを紹介している。</p> <p>内部・外部の苦情受付窓口を明示し、意見箱の設置や玄関への掲示で家族等への周知を図っている。家族から出された意見や苦情は、苦情処理簿にまとめ、会議等で話し合い、改善に向けて取り組んでいる。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域のお祭りやイベントに積極的に参加し、ホームを理解してもらえるよう努めている。また、足湯を設置し、地域に開放することで、気軽に立ち寄れるよう工夫している。夏祭りのボランティアや実習生を受け入れているほか、在宅介護支援センターが中心となり、認知症講座を開催するなど、専門的機能を地域へ還元している。</p>

【各領域の取組状況】

領域	取り組み状況
I 理念に基づく運営	<p>管理者や職員は、地域密着型サービスの役割を理解しており、全職員で話し合い、「1. 家庭的な雰囲気の中で自立に向けた援助を提供します。2. 自分らしさや意思を大切に仲間と一緒に楽しめる生活を援助します。3. ゆったりとやすらぎのある環境作りをします。」というホーム独自の理念を作成している。</p> <p>管理者は、職員採用時に理念の説明をし、玄関にも掲示し共有を図っている。家族にも理念やホームの方針について説明を行っている。</p>
II 安心と信頼に向けた関係作りと支援	<p>十分なアセスメントを行い、利用者の生活暦等を把握し、利用者・家族の意向に沿ったサービス開始となるよう支援している。また、利用者や家族等と十分な話し合いを行い、サービス提供に活かしている。</p> <p>職員は、利用者の理解に努め、調理の手伝いのほか、畑でのトマト・ナス・枝豆・とうもろこし等の収穫を一緒に行き、喜びや美味しさを味わうなど、共同で生活している。</p>
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	<p>介護計画を作成する際は、可能な限り利用者や家族の意見を聞き、管理者・担当職員・介護支援専門員で十分に話し合っている。介護計画は、長期・短期の計画が整理されており、利用者本位の具体的な計画となっている。</p> <p>介護計画は3ヶ月毎に、家族等の意見を取り入れ、再アセスメントした上で見直しを行っている。職員は日々利用者の状況を介護記録に細やかに記録し、変化を把握する取り組みを行なっている。</p>
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	<p>職員は、個人情報保護法について概ね理解し、利用者の個人記録等は訪問者の目の付かない場所に保管している。また、会議や研修等で声掛け等の対応について確認するなど、日々のケアに活かしている。</p> <p>日中玄関を施錠せず、利用者の外出傾向を察知できるよう、センサーを設置するほか、職員による見守りも行っている。また、居室等、利用者が日常的に出入りする場所は施錠していない。無断外出対応マニュアルを作成し、近隣住民や警察・消防署等関係機関から協力を得る体制が整っているほか、やむを得ず施錠する際は、家族に説明を行い、同意を得ている。</p>

評 価 報 告 書

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを 期待したい 項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	管理者や職員は、地域との連携を重視した運営を心がけ、全職員で話し合い、「地域の中でその人らしく普通の暮らしができる」という、地域密着型サービスの役割を反映したホーム独自の理念を作成している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者は、理念について職員入社時に説明するほか、会議等でも取り上げ、全職員で確認・共有している。また、理念を基に地域との交流を図り、利用者が家庭的な雰囲気の中で楽しい生活を継続できる環境づくりを目指し、日々のケアに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	4	○隣近所、地域とのつきあい及び地域貢献 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけあったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるよう努めている。事業所は地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。また、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。担当職員はキャラバンメイトになるなど、地域の認知症普及活動に参加している。	地域のお祭りやイベントに積極的に参加し、ホームを理解してもらえるよう努めている。また、足湯を設置し、地域に開放することで、気軽に立ち寄れるよう工夫している。夏祭りのボランティアや実習生を受け入れているほか、在宅介護支援センターが中心となり、認知症講座を開催するなど、専門的機能を地域へ還元している。外部の方がホームを訪れる際の利用者のプライバシーについて、家族に説明し了解を得るなど、十分に配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	5	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>管理者や職員は、評価を行うことの意義を理解し、自己評価を作成する際は全職員で取り組んでいる。また、外部評価の結果を基に話し合い、改善に向けて積極的に取り組んでいる。</p>		
5	6	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議は2ヶ月に1回開催し、自己評価や外部評価の結果の報告のほか、ホームの行事計画や事故報告等を行い、意見交換をしている。また、全家族に会議参加を促し、多くの参加を得ている。</p>		
6	7	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、考え方や運営の実態を共有しながら、直面している運営やサービスの課題解決に向けて協議し、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>行政に広報を送付しているほか、自己評価や外部評価の結果を報告している。また、運営推進会議へ参加を得たり、介護支援専門員連絡会議に参加し情報交換を行なうなど、密な連携を図っている。</p>		
7	8	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について研修を行い、制度について理解している。現在、制度利用者が1名おり、社会福祉協議会と連携しているほか、必要に応じて情報提供を行うなど、制度の利用に繋がるよう支援している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
8	9	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で虐待に関する研修を行っている。虐待は、職員のストレスからくる場合もあると考えられ、職員のストレス解消などには十分配慮し、夏休み・冬休みを取ったり、職員間のコミュニケーションを図るなど、虐待の無いよう取り組んでいる。虐待を発見した場合の対応方法や報告の流れの取り決めがあり、全職員が理解している。		
4. 理念を実践するための体制					
9	10	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、重要事項説明書やパンフレット等を用いて、理念や運営方針について十分説明している。また、利用者や家族等が意見や希望等を出せるよう働きかけている。契約内容変更時は十分に説明を行い、新たな契約書に同意を得ている。退居の際は、利用者や家族等が不安を抱かないよう十分に説明を行い同意を得ている。		
10	12	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月、家族等に状況報告書を送付し、利用者の暮らしぶりや受診状況・健康状態について報告している。また、金銭管理についても出納帳で管理し、領収書を添付し報告している。さらに、2ヶ月に1回、法人広報紙を送付している。		
11	13	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にホーム内部苦情受付窓口、国保連や運営適正化委員会等の外部苦情受付窓口を明示しているほか、玄関にも掲示し家族等に周知している。また、運営推進会議への参加を促し、意見等を出せる機会を設けている。出された意見や苦情は、苦情処理簿にまとめ、会議で話し合い、運営推進会議で報告し、改善に向けて取り組んでいる。		
12	16	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の異動による利用者への影響を理解しており、異動の際は詳細な引継ぎを行うほか、利用者の状態に合わせて十分に説明している。担当職員交代時は、しばらくの間、管理者が新職員に関わるなど、利用者には混乱が生じないよう配慮している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
13	17	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人の事業計画書には研修の必要性を謳い、管理者も認識しており、職員を個々の力量や経験に応じた研修会に派遣している。職員は研修会参加後に報告書を作成し、伝達講習を行うことで、全職員に周知している。法人には研修委員会があり、内部研修計画を作成し研修を行なっているが、外部研修の年間研修計画書を作成するまでには至っていない。また、業務について助言を得られる人材を確保していない。</p>	○	<p>前年度の外部研修主催者に問い合わせるなどして、外部研修会の年間研修計画を作成することに期待したい。また、同業者との勉強会等を通じて職員等の業務について助言を得られる人材を確保してはどうか。</p>
14	18	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者は、同業者との交流の必要性を認識し、町役場介護支援専門員連絡会議に参加し、交流や連携を図り、日々のケア場面に活かしている。</p>		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	23	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>十分なアセスメントを行い、利用者の生活暦等を把握し、利用者・家族の意向に沿ったサービス開始となるよう支援している。また、利用者や家族等と十分な話し合いを行い、サービス提供に活かしている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	24	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>職員は、利用者の理解に努め、調理の手伝いのほか、畑でのトマト・ナス・枝豆・とうもろこし等の収穫を一緒に行い、喜びや美味しさを味わうなど、共同で生活している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	30	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	全職員は、利用者との日々の関わりから、思いや意向を把握している。思いや意向が把握できにくい場合は、家族や関係者から情報収集を行い、利用者の視点で把握するよう努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	33	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画を作成する際は、可能な限り利用者や家族の意見を聞き、管理者・担当職員・介護支援専門員で十分に話し合っている。介護計画は、長期・短期の計画が整理されており、利用者本位の具体的な計画となっている。		
19	34	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直しを行っている。また、利用者の健康状態や家族の希望等に変化がある時は随時見直しを行っている。見直しを行う際は、家族等の意見も取り入れ再アセスメントを実施している。職員は日々利用者の状況を介護記録に細やかに記録し、変化を把握する取り組みを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
20	36	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	法人全体でのイベントの実施や、短期利用・買い物・受診支援など、柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21	40	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>利用者や家族等が希望する医療機関を受診できるよう支援しており、受診結果を家族に報告している。また、受診内容等について、医療機関や家族等との共有を図っている。協力病院と連携し、利用者の健康状態等に変化がある際は、いつでも受診できる体制が整っている。</p>		
22	44	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>重度化や終末期への対応を明確にしており、重要事項説明書等を用いて家族等に説明している。また、利用者や家族等の希望に応じて、かかりつけ医・訪問看護・職員が連携を図り、支援している。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	47	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>職員は、個人情報保護法について概ね理解し、利用者の個人記録等は訪問者の目の付かない場所に保管している。また、日々のケアの際も、利用者のプライバシーや羞恥心等に配慮しているほか、会議や研修等で声掛け等の対応について確認するなど、日々のケアに活かしている。</p>		
24	49	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>職員は、利用者の話をゆっくり聞き、言動を急かすことなく、個々のペースに合わせた支援を行っている。また、入浴など、利用者の身体・精神状況に合わせ、柔軟に対応している。</p>		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	51	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、可能な場合は利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は利用者の好み等に配慮している。利用者は個々の状態や意思に応じて、職員と一緒に調理の手伝いや後片付けを行っている。職員は利用者とお話をしながら、食べこぼし等のサポートを行い、一緒に食事を摂っている。		
26	54	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回としているが、利用者が希望する時間に入浴できるよう支援している。入浴を拒否する利用者には足浴を進めるなど工夫している。また、個々の体調や入浴習慣にも十分配慮している。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	56	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	アセスメントや家族からの聞き取りにより、利用者の生活歴や楽しみごと、得意なこと等を把握している。また、利用者の興味関心を引き出すよう、家庭菜園の野菜作り等に取り組んでいる。		
28	58	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム専用の車両を利用して、買い物やつつじ祭り・花見・地域のお祭りなど、利用者のその日の状態に合わせて支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(4)安心と安全を支える支援					
29	62	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者や職員は身体拘束による利用者への弊害を理解しており、身体拘束を行わないケアに取り組んでいる。やむを得ず身体拘束を行なう場合は家族から同意を得るほか、所定の様式に記入し、管理する体制が整っている。		
30	63	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中玄関を施錠せず、利用者の外出傾向を察知できるよう、センサーを設置するほか、職員による見守りも行っている。また、居室等、利用者が日常的に出入りする場所は施錠していない。無断外出対応マニュアルを作成し、近隣住民や警察・消防署等関係機関から協力を得る体制が整っているほか、やむを得ず施錠する際は、家族に説明を行い、同意を得ている。		
31	68	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	法人全体で、定期的に避難訓練を実施し、夜間想定での訓練も行っている。また、ホーム単独での訓練も実施している。災害発生時には関係機関から協力が得られるよう働きかけているほか、飲料水やインスタント食品等を備蓄している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
32	74	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立や栄養摂取状況について、法人栄養士から指導や助言を得て、栄養バランスに配慮した献立を作成している。また、利用者の個々の1日の総摂取カロリーや水分量等を把握し、記録している。		
33	75	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症予防等のマニュアルを作成し、法人全体で研修会を行うほか、感染症委員会で定期的にマニュアルの見直しを行っている。職員は保健所からの最新情報を収集し、家族面会の際に周知を図っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p>					
<p>(1)居心地のよい環境づくり</p>					
34	78	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>各ユニットに畳の小上がりやコタツ、ソファを設置し、家庭的な雰囲気となるよう配慮している。利用者は思い思いの場所でテレビを見たり、横になるなど自由に過ごしている。また、テレビの音や音楽、職員の立てる物音などは適切で、ホーム内の装飾も工夫し、季節を感じるができる。</p>		
35	80	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>家族等に、入居前から使用していた物の持ち込みを働き掛け、利用者はテレビ・冷蔵庫・カレンダー・写真等を飾っている。持ち込みの少ない利用者は、担当職員と一緒に暖簾や表札・小物等を工夫し、個々に応じた個性のある居室作りを行っている。</p>		

※ は、重点項目。